

最先端研究開発支援会議（第1回）議事概要

● 日時：平成21年6月29日（月）11：10～12：10

● 場所：首相官邸4階大会議室

● 出席者：

座長	麻生 太郎	内閣総理大臣
座長代理	野田 聖子	内閣府特命担当大臣（科学技術政策担当）
構成員	相澤 益男	総合科学技術会議議員
同	榊原 定征	総合科学技術会議議員
同	國井 秀子	リコーソフトウェア株式会社取締役会長
同	小林 誠	独立行政法人日本学術振興会理事・学術システム研究センター 所長
同	佐々木 毅	学習院大学教授
同	白井 克彦	早稲田大学総長
同	千野 境子	産経新聞論説委員・特別記者
同	長谷川真理子	総合研究大学院大学教授
同	松井 孝典	千葉工業大学惑星探査研究センター所長、東京大学名誉教授
同	渡辺 捷昭	トヨタ自動車株式会社代表取締役副会長

（基金管理所管大臣 塩谷 立 文部科学大臣
として出席）

● 議事次第：

1. 開会

2. 議事

- （1）最先端研究開発支援プログラムについて
- （2）最先端研究開発支援会議運営規則について
- （3）中心研究者・研究課題の公募及び選定の方針等について
- （4）最先端研究開発支援ワーキングチームの開催等について
- （5）意見交換
- （6）その他

3. 閉会

● 配付資料

資料1-1 プログラム運用の基本方針

資料1-2 最先端研究開発支援プログラム運用基本方針

資料1-3 「最先端研究開発支援会議」の開催等について

資料2 最先端研究開発支援会議運営規則（案）

資料3-1 中心研究者・研究課題の公募及び選定の方針（案）のポイント

- 資料 3-2 最先端研究開発支援プログラムにおける中心研究者・研究課題の公募及び選定の方針（案）
- 資料 3-3 中心研究者・研究課題選定における透明性確保の考え方について（案）
- 資料 3-4 中心研究者・研究課題選定時における利害関係者の排除について（案）
- 資料 4 「最先端研究開発支援ワーキングチーム」の開催等について（案）
- 資料 5 最先端研究開発支援プログラムスケジュール

● 議事概要

1. 開会

【麻生太郎座長】

最先端研究開発の支援プログラムは、長い間のしがらみや既得権益に捕らわれず、優秀な研究者の持てる力が最大限に発揮できる制度。日本の代表的な研究者、まだ卵かもしれないが代表的研究者となり得る方々を選定し、最先端の研究開発を支援することで、その成果が世界のトップなるものになりたい。既存の制度では難しいところがあったので、今回この支援プログラムを設立させていただいた。中心研究者や研究課題の選定には、私自身座長として積極的に決定に参加をさせていただきたい。選定の際に揉めたなら、私が最終決定をするという覚悟である。メンバーの皆様方には、世界に誇れる成果を生むことができるよう、お力添えを賜りたい。

2. 議事

(1) 最先端研究開発支援プログラムについて

資料 1-1～資料 1-3 に基づき、事務局より本プログラムの概要について説明。

(2) 最先端研究開発支援会議運営規則について

資料 2 「最先端研究開発支援会議運営規則（案）」について決定。

(3) 中心研究者・研究課題の公募及び選定の方針等について

資料 3-1～資料 3-4 について、事務局より説明。

各構成員から以下のような意見等が出された。

【塩谷文部科学大臣】

本プログラムは画期的。新しい仕組みでやることが大事。世界最先端の研究開発が成果として出ることを期待。

4週間という公募期間について、予算額も大きく期間も3年～5年であることを考えると、公募期間が短い。さらに検討していただきたい。長いほうが色々な分野からの応募がある。既存の制度の公募期間は2カ月ぐらいである。今まで以上に最先端を目指すということなら、4週間では短い。補正で措置されたものであり早期に実施すべきということなら、公募を2回に分けることも検討していただきたい。

また、支援を受けるなら他の研究開発との原則一本化ということだが、内容等によって臨機応変にしたほうが良い。一本化が原則となると研究者が迷う。臨機応変に対応すべき。

さらに、国会ではできるだけ幅広い分野からバランスよく選定すべきという議論がされ

た。できるだけ幅広い分野から最先端を目指せるようなものを選んでいただきたい。

【佐々木毅氏】

大変新しいプログラムでぜひ成功させないといけない。

本プログラムには、人事的な制度の問題や研究者が自由に研究する時間の確保のための調整が必要であるという新しい要素が入っている。これがスピーディにできるのかどうかという点で、公募期間がやや心配ではある。

次に、このプログラムでは世界のトップとして研究成果を上げることが最優先されるべきで、選定される課題数が30という点に引っ張られ過ぎてはいけない。制度運営の弾力性を確保についても野田大臣を中心に検討いただきたい。

大学の管理や人事に係る制度は入り組んだもので非常に時間を要する。本プログラムは研究支援担当機関という今までとは違った体制でやる意欲的なものであるが、どれだけの手間とどれだけの手続が必要なのかが想像つかず、それは時間つまり応募期間の問題になるのではと心配ごとを申し上げた。

【白井克彦氏】

本当に画期的なプログラム。ぜひ成功してほしい。成功すれば他にまた違った影響を与える可能性はあり、そういう危惧を言う方もおられるが、こういうことは思い切ってやってみるべき。成功させればまた違った考え方に発展していく。

応募期間4週間については少し厳しい、というご意見もあったが、応募の内容を詰めて出せるかという心配はある。

他方で、応募については、やる気のある人が出してくるだろうから、2回に分ける必要はない。

このプログラムは第2ステップが鍵。第2ステップで、研究マネジメントを担う人や部隊がうまく組めるかが大きな課題。仮に大学がこれをしようとしても、そのための体制はないと思われる。企業の場合は研究のマネジメントをやっているので、それなりのノウハウがあるかもしれない。ここが大きなチャレンジであり、どのようにマネジメントして中心研究者を盛り立ててやることができるのかが重要。中心研究者やマネジメントを担う人も含めて働けるようにするというやり方は簡単ではない。次第に進んではいくだろうが、初めからすんなりいくものではないだろう。

【榊原定征氏】

このプログラムは画期的ですばらしい。厳しい財政事情の中でこのような画期的な制度を導入した総理及び両大臣初め関係閣僚のご英断に対して敬意を表したい。

まずこの制度は、もともと今年度の補正予算の中で、現下の経済危機を打開するための臨時的処置という形で措置されたが、臨時的なものではなく恒久的な形で残していくことが大事。そのためにも、ぜひこの制度のもとでの研究成果を上げること、国民からもきちりと納得を得られるような成果を上げることが非常に大事である。

2点目に、研究課題の選定について、経済危機克服対策ということでできた制度であるため、世界レベルでの研究成果を中長期的な経済成長や雇用創出に結びつけるのが本来の

趣旨。そのために、研究課題は世界の産業構造を根本から変えるようなインパクトの大きい研究課題や、産業の国際競争力を圧倒的に強化するような研究課題、あるいは環境資源、エネルギー、それから健康長寿、あるいは防衛、安全保障といった国家的課題をメインに選定すべきである。もちろん、世界トップレベルの基礎研究、それから基礎科学も当然大事であり、これらとの適切なバランスが極めて大事でもある。ワーキングチームやこの支援会議でもその点についてしっかりと見ていく必要がある。

【相澤益男氏】

日本の科学技術政策では今までできなかったことが2点ある。1つは特定の非常にすぐれた創造的頭脳に集中的かつ大規模に資金投入するということができなかった。もう1つは、研究者の目線に立って、その研究者の能力をフルに発現するような支援の体制が十分でなかった。今回、このプログラムはその両方を一挙に解決しようという野心的なものである。

このことは選定課題30件にもかかわってくる。今までにも大きなプロジェクトはあった。しかし、今回の1件当たり平均規模は前例の無い規模である。そういう点で課題選定数を30件程度とするのは、一つの目安、判断基準になると思われる。

もう1つの重要な点は、研究支援担当機関を中心研究者が指定できるというところ。今までは研究者中心の支援体制を作るためには色々なシステム改革が必要だった。やろうとしても、大学や独法がそれを実施できるような体制にない。ならば研究者は思い切って第三者の研究支援機関に頼んでもいいという仕組みを導入したことがこのプログラムの特徴である。したがって、第2ステップの研究支援体制づくりのシステム改革が今回の成否を握っている。課題選定後もこの点についてどう進めていくかを支援会議もウォッチする必要がある。

【千野境子氏】

頼もしい企画である。関係者では非常に関心が高い。既に当社のほうにまで色々とアピールが来ている。一方、これが人口に膾炙しているかという疑問。補正予算まで読む国民は少ない。国民的関心やサポートがあつてこそ初めて大きな力になる。

もう1つは公募期間の時間的なこと。私には4週間が短いのか長いのかという判断はつきかねるが、こういうものは勢いやモメンタムが必要。一気に呵成にやるということが大事。透明性を確保するため議論を公開することには賛成。

お願いしたいのは早く実施してほしいということ。役所のインターネットは公開が遅い。

【國井秀子氏】

公募期間について、短いかも知れないが、研究者は研究課題をずっと認識している。変革の切っ掛けにするなら、クイックに制度を実施することが重要。考えていてもパーフェクトというのはないので、今回のこの3つのステップで新しいことに取り組み、その中で問題が出てくれば直していくという仕組みが重要。

【長谷川真理子氏】

私のようなあまり研究費がいらぬ研究をしている人間からすると、このプログラムは夢のような話で、どう使ったらいいかわからないと言ったら、私の周りの何人もが、そんなものは1年で使えると言っていた。画期的なことがたくさん入っていて影響力が大きく、うまくやらないといけないという責任を感じる。

大きな規模で、ある研究分野や人に補助をすると、10年以上に渡って研究の分野や世の中のあこがれがそこにシフトする。特定のものだけが脚光を浴びると、本来脚光を浴びるべき他の分野がじり貧になる。そういうことは不健全。支援される研究は夢を与えるものであると同時に、それ以外の分野も活性化される視野の広いものであることが必要。

また、人を雇用し大きなお金も使って5年で終了した後、研究はどのように継続されるのか。人を中心に研究支援体制も自由に選べる場所は今までと違う。するとポストクも雇えるが、このプログラムが終わった後はどうするのか。文部科学省の資金は、終わった後は勝手に大学で次の資金源を見つけるということになっている。すると継続するための書類書きだけで研究者はつぶれてしまう。このプログラムも、一度もらったはいいけれど制度が5年で終わり、研究を続けるために中心研究者が次の資金繰りで書類書きばかりでつぶれていってしまうとなると困る。そういうことがないよう、プログラム終了後、研究を継続できることを探るということを、ステップ2ぐらいで、日本の将来の問題として考えていくべき。

【松井孝典氏】

公募期間ということと、人事に係る問題に私もどうすべきかと考えていたところである。公募期間については、研究者の立場から言うと、ずっと考え続けている問題があるから研究者なのであって、公募期間の4週間は短いかといったら短くはない。明日書けと言われてればすぐ書ける。だからそれは問題ない。

問題は支援する機関。今までは自分の所属する機関がサポートしてくれた。このプログラムは研究者が名乗りを上げた後に支援機関が現れる。研究者は支援機関のことを事前に考えることとなるため、そのことで多少時間が必要かと思われる。支援機関をどうするかは工夫が必要。

また、このプログラムに研究者が名乗りを上げて、100%の-effortでやるなら、本来は一旦その所属を辞めることになる。大学にいれば教育や会議がたくさんある。それを一旦辞めて名乗りを上げるということになる。つまり、このプログラムで自分の給与も出してもらおうという格好にする。そうすると、5年後どうなるのか。これが大きな問題として残る。

このように具体的な問題として詰めるべきところはあるが、こういう全く新しい初めての試みは早急にやってもらいたい。駄目なところは改めればよいという柔軟な姿勢でやることが重要である。

【渡辺捷昭氏】

研究者にはしたい研究というシーズがある一方で、研究に対してはニーズもある。産業としてどう育成するのかということも含めて、ニーズとの結びつきを意識すべきである。ノーベル賞をもらうのか、産業育成するのか、その中間なのかといったニーズとシーズを

しっかり見る必要がある。これは国民目線ということで大変重要だと思う。

2つ目に、支援機関について、経済産業省の産総研、文部科学省の機関といったように多くの組織がある。これらをどう整理するのか。ある程度英断をもって集中的に資源を投入するというやり方をすべきではないか。

3つ目は、非常に個々のミクロのものに集中しないほうがいい。シーズがありその研究だけやるという部分最適ではなく、全体最適へ結びつけていくことが重要。例えばどこかの町を環境負荷ゼロの町にする、そのために科学技術は何をすべきかなど。私が提案しているのは、豊田市を交通事故死亡者をゼロにしようということ。その町づくりのためにどういう研究をしたらいいのか、車についてもインフラについても情報通信のネットワークについても考えないといけない。総合的にそこへ集中して進めるというやり方もある。

【小林誠氏】

こういう高額の研究公募の1つの問題点は、予算に合わせて計画を作ることが起こること。したがって従来の蓄積の上に新たな展開を求めているところや、真に資金を必要としているところを厳選すべき。全てを一度に決めるということを前提にしないほうがよい。

また、それぞれの研究というのは複雑な背景を持っているので、資金やプログラムの一本化ということ余り厳密に考えないで弾力的に運用していただきたい。

(野田座長代理より、構成員の意見の取扱いについては、麻生総理及び野田座長代理に一任いただきたいこと、その上で、中心研究者・研究課題の公募及び選定の方針等(資料3-1、資料3-2、資料3-3、資料3-4)については、必要な修正を行い、当該会議において決定したものとさせていただくことを説明。)

(4) 最先端研究開発支援ワーキングチームの開催等について

資料4「最先端研究開発支援ワーキングチーム」の開催等について(案)」の開催等について決定。

(5) 意見交換

特になし。

(6) その他

事務局より資料5「最先端研究開発支援プログラムスケジュール」について説明。

3. 閉会

(了)